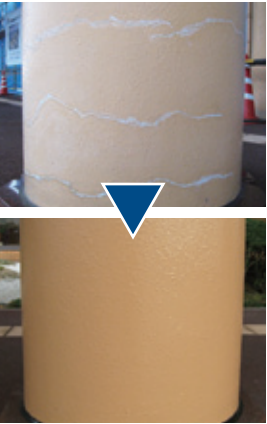


DGSシールグラウト工法とDGSエポフレックスの特長

- 1. Uカット、Vカットが不要となり、騒音・粉塵を出しません。
- 2. 施工跡が最小限で、目立ちません。打放しコンクリートにも良好。弾性吹付タイルなどの再塗装時のパターン補修も不要です。
- 3. サイディング、ラスモルタル、ALC、PC、石材などの薄くて動きやすい部材のクラック補修にも最適です。
- 4. 手軽なシステムでかさばらず、注入材の調合や計量の必要もなく作業性が良好です。
- 5. 降雨直後などの湿潤クラックでも施工できます。
- 6. DGSエポフレックスは適度な弾力性を有し衝撃や動きに追従して、二次劣化を防止します。
- 7. DGSエポフレックスはノンブリードタイプなので、上塗り塗装の汚染を防止します。
- 8. DGSエポフレックスは速硬性で注入後の塗装も可能です。(タックフリー後)
- 9. DGSエポフレックスは1成分形で、2成分形エポキシ樹脂に比べ毒性や異臭が少なく、人体への影響が軽減されます。



パターン補修をしなくてもきれいな仕上がりが得られます。

注入に必要な工具と材料

工具



材料



注意事項

- 1. 直射日光を避け、涼しく湿気の少ない場所で保管してください。
- 2. 万が一皮膚に付着した場合は、石鹸で良く洗い、水で洗い流してください。
- 3. 誤って目に入った場合は、流水でよく洗い流した後、医師の診断を受けてください。

★お客様へ

本カタログに記載している情報及びデータは、当社の実験によるデータです。ご使用に際しては用途に適合するか事前にご確認願います。また、この資料の記載事項は、予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。

DGSエポフレックスの一般的な特性

DGSエポフレックスの性状と性能

試験項目	DGSエポフレックス EF-M	備考
外観	ペースト状	
比重	1.35	JIS K 6833
不揮発物 (%)	93	JIS K 6833
粘度 (Pa.s)	180	B型回転粘度計 (10rpm)
タックフリー時間 (min)	60	JIS A 1439 (23℃/50%RH)
最大引張強度 (N/mm ²)	3.0	14日間/23℃ ダンベル3号
破断時伸び (%)	50	14日間/23℃ ダンベル3号
せん断引張接着強度 (N/mm ²)	2.4	被着体：モルタル

※DGSエポフレックスは1成分形湿気硬化型弾性エポキシ樹脂です。

DGSエポフレックスの各気温における硬化時間

硬化時間 (h)				
気温		5℃	23℃	35℃
厚み(mm) クラック幅	0.5	24	6	3
	1.0	72	12	8
	2.0	120	24	16
	3.0	240	60	24

DGSエポフレックス荷姿

製品名	色	容器
DGSエポフレックス EF-M	ホワイトグレー	300mlカートリッジ 10本/1ケース

DGSエポフレックス有効期限：12ヶ月 (冷暗所保存)

DGS シールグラウト工法 クラック補修

私たちは日ごろ街角で様々な建物を目にします。どの建物もいつかは必ず老朽化が進み、メンテナンスが必要な時がやってきます。

建物の老朽化で発生する現象の一つに壁や床などのクラック（ひびわれ）があります。これを放置したままにしておくと外観だけでなく、雨水の侵入が原因で建物がさらに劣化してしまう恐れがあります。

そこで、大切な建物の美観や耐久性を維持するために最適なクラックの補修方法が「DGSシールグラウト工法」です。

DGSシールグラウト工法とは弾性エポキシ樹脂をクラックの表面から深さ10mm程度注入することにより、水密・気密・美観・再発防止を確保する新しい考え方のクラック補修システムです。また、DGSシールグラウト工法は速硬性の樹脂の使用により短時間で注入作業が完了します。



DGS事務局
〒592-0001 大阪府高石市高砂2-9-1
TEL.050-3407-1988 FAX.072-268-0326
http://www.sharpchem.co.jp/
info@sharpchem.co.jp



DGS シーリンググラウト工法 クラック補修

1. DGSシーリンググラウト工法は弾性エポキシ樹脂（DGSエポフレックス）を使用して、コンクリートやモルタル壁のクラック注入補修作業を行う時のためのものです。
2. DGSシーリンググラウト工法はダイレクトグラウトシステムが指定した材料と工具を使用して注入されるものとします。
3. DGSシーリンググラウト工法で対応可能なクラックの幅は0.1mm～3.0mm、気温は1℃～40℃の間とします。
4. 注入に使用される材料はシャープ化学工業株式会社によって製造・検査が行われたものとします。
5. 材料の使用可能期限は当製品の有効期限内とします。（冷暗所保管：12ヶ月）
6. DGSシーリンググラウト工法は水密・気密を確保するためのものです。
構造部分の強度補強にはDGSハードグラウト工法を適用してください。

コンクリート・モルタルのクラックから ALC・サイディング板などのクラックまで



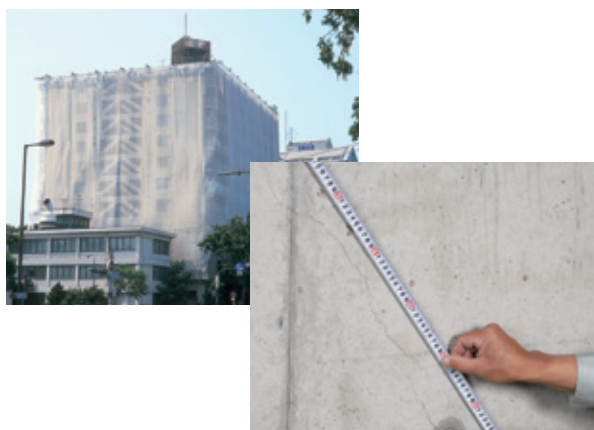
DGSエポフレックスのカートリッジ1本における施工可能量

クラックの幅	注入深さ10mm
0.3mm	70m
0.5mm	42m
1.0mm	21m
1.5mm	14m
2.0mm	11m

（30%のロスを含む）小数点以下四捨五入

1 クラックの調査

実際の施工方法や仕上りに関して工事担当者と打ち合わせを行います。
クラックの幅、長さ、貫通の有無などを調査し施工箇所の確認をします。
それらに基づいて作業範囲や工程を決定します。



クラックの事前調査

2 高圧洗浄

DGS洗浄ガンを使用し、クラック周辺及び内部の汚れやゴミをゆっくと確実に追い出すように取りのぞきます。
上下方向のクラックの場合は下から上へ、そして上から下へと必ず往復洗浄を行います。
横方向や天井などは一方の端から行き、折り返し往復して洗浄します。
★空気：水=6,000：1



高圧ミストでクラック内部を洗浄

3 クラックの計測

調査段階でクラックの測定を行っていますが、ホコリや目づまり、劣化部分もありますので、高圧洗浄を行い内部をきれいな状態に整えた後、改めて施工管理のためのクラック幅や長さを計測します。



高圧洗浄後クラックを計測

4 ガンへの装着

DGSエポフレックスのカートリッジをDGSエアガンにセットします。
DGSエアガンにDGSノズル及びDGS先端チップを装着し、クラックへの注入を行います。



DGSエアガンにカートリッジを挿入

DGS先端チップ

5 DGSエポフレックスの注入

DGS先端チップをクラックに垂直に軽く押し付けながら施工してください。注入を開始するとチップの前後から樹脂が盛り上がるのが見えてきます。
この盛り上がりが見えてきたらゆっくりとクラックに沿ってガンを移動していきます。



クラックに沿って注入

樹脂の盛り上がりを確認しながら移動

6 施工状態の確認

注入作業完了後、DGSエポフレックスが均一に表面に押し出されて盛り上がるまで注入されていることを確認します。
もし、完全に埋められていない所があれば可使時間内に上からDGSエポフレックスを再注入します。



注入不足をチェック

注入後の樹脂の盛り上がり

注入不足には再注入

7 仕上げ作業

完了

DGSエポフレックスの注入作業が完了したら、クラックからはみ出た部位を可使時間内の軟らかいうちに、ヘラやウェスなどでふき取って下さい。
よりきれいに仕上げるためには、注入時に周辺への無駄なみ出しや汚れを最小限にします。
また、より凹のない平らな仕上りのためには翌日以降にカッターなどで盛り上がり部分だけ切り取る方法もあります。



ヘラで余分なDGSエポフレックスを削ぎ取る

溶剤などで拭き取る

硬化後カッターで余分なDGSエポフレックスを切り取る

確認検査（オプション）

抜き取り検査が必要な場合は担当者と話し合った上で、DGSエポフレックスが注入されたコンクリートの部分を小さく切り取り、施工状態を確認します。
サンプルを取り出した後は、躯体コンクリート以上の強度の樹脂モルタルを充填し表面を平滑にきれいに整えます。



ドリルでサンプリング

取り出された施工サンプル